

## ◆ 今週のコメント

- レジオネラ症(肺炎型)の報告が1例あります。第14週から3週続いており、本年の累積報告数は、4例です。過去の年間報告数は、平成19年と平成20年が21例、平成21年が6例で、第16週までの報告数としては、平成20年(10例)に次ぐ報告数です。本年(4例)の病型は、すべて肺炎型、年齢は、60歳代1例、70歳代3例、推定感染経路は、水系感染3例、不明1例です。
- 手足口病の定点当たり報告数は、0.76(31例)です。第8週以降、過去5年平均値を上回る状態が続いており、本年で最も多くなっています。
- 流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、0.80(33例)で、第4週以降、過去5年平均値を上回る状態が続いています。
- A型肝炎の報告が1例(第17週)あり、推定感染経路は、経口感染(生カキ)です。全国では、第15週までの累積報告数が121例(死亡例1例)で、平成21年の年間報告数(115例)を超えており、第10週以降、報告数が急増しています。広域に流行が広がる可能性があり、国立感染症研究所感染症情報センターから注意喚起情報が出されています。

## ◆ 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、9.24(379例)で、先週の報告数6.54(268例)に比べ増加しています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数報告の感染症

- 四類:A型肝炎 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- 四類:レジオネラ症(肺炎型) 1例【1月以降の累積報告数 4例】

### 定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.03	2
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	9.24	379
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.80	33
	② 流行性耳下腺炎	0.80	33
	④ 水痘	0.78	32
	⑤ 手足口病	0.76	31
眼科	流行性角結膜炎	0.50	5

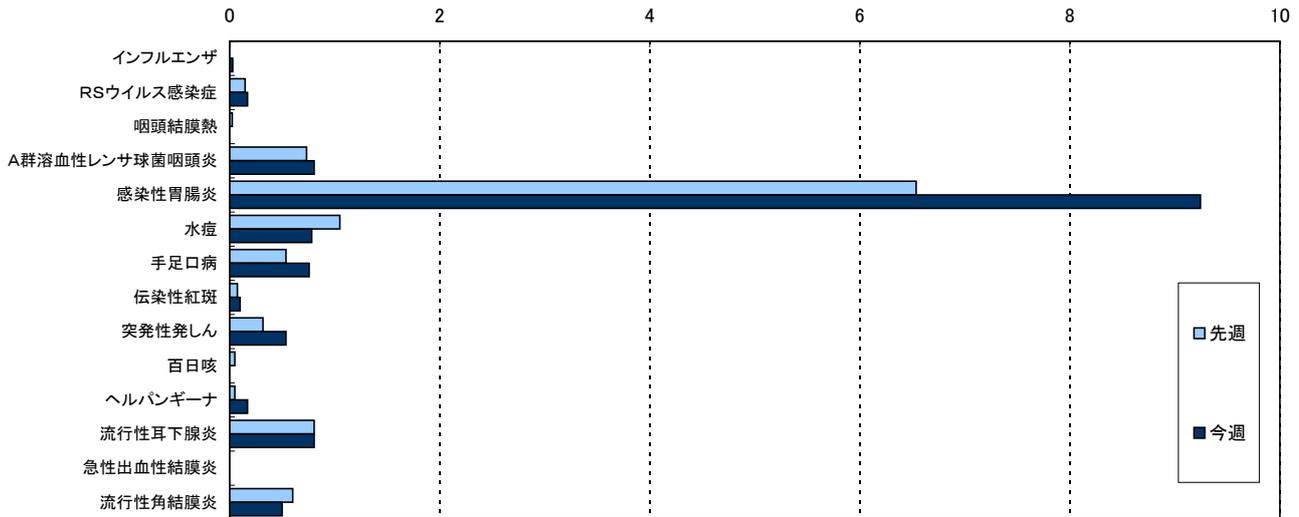
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

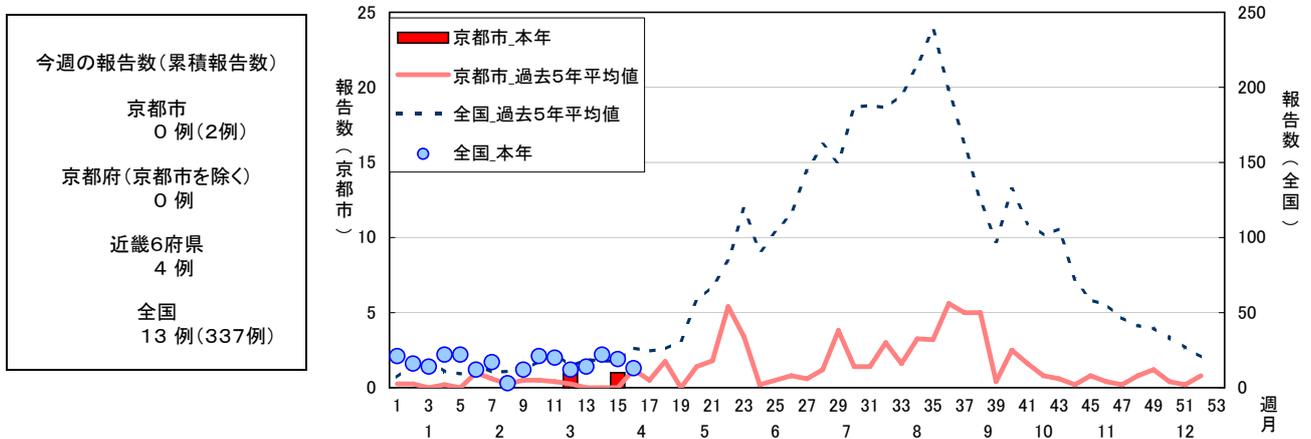
(注) 京都市のデータは、平成22年4月30日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。

# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第16週)と先週(第15週)の定点当たり報告数の比較



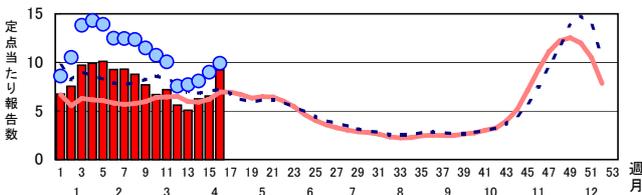
## 2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移



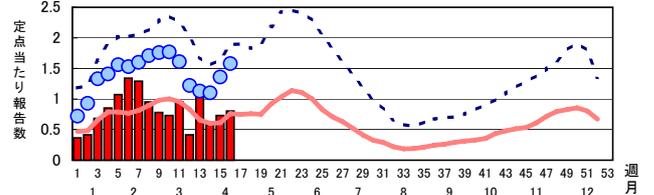
## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

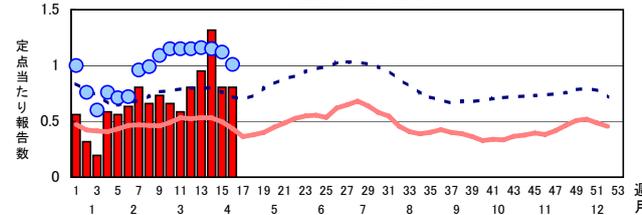
1 感染性胃腸炎



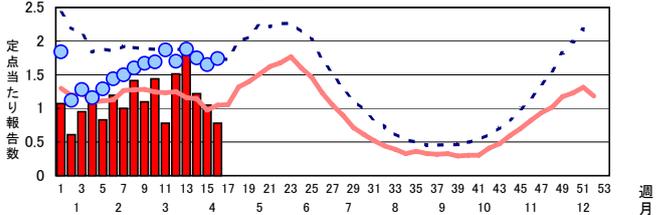
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



2 流行性耳下腺炎

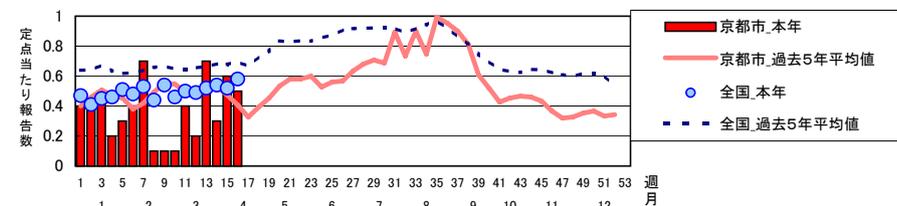


4 水痘



<眼科定点>

流行性角結膜炎



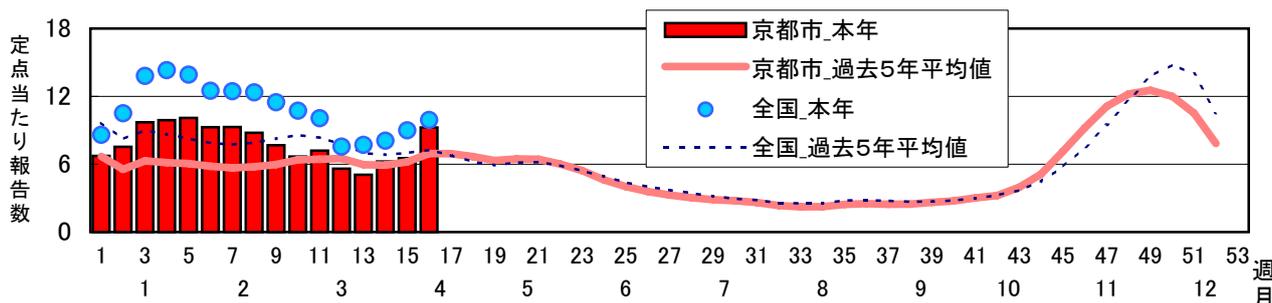
## 第16週(4月19日～4月25日)トピックス: <感染性胃腸炎>

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、9.24(379例)で、先週の報告数6.54(268例)に比べ増加しています。全国の定点当たり報告数は、9.91です。過去5年平均値(京都市(6.95)、全国(7.26))を共に上回っています。

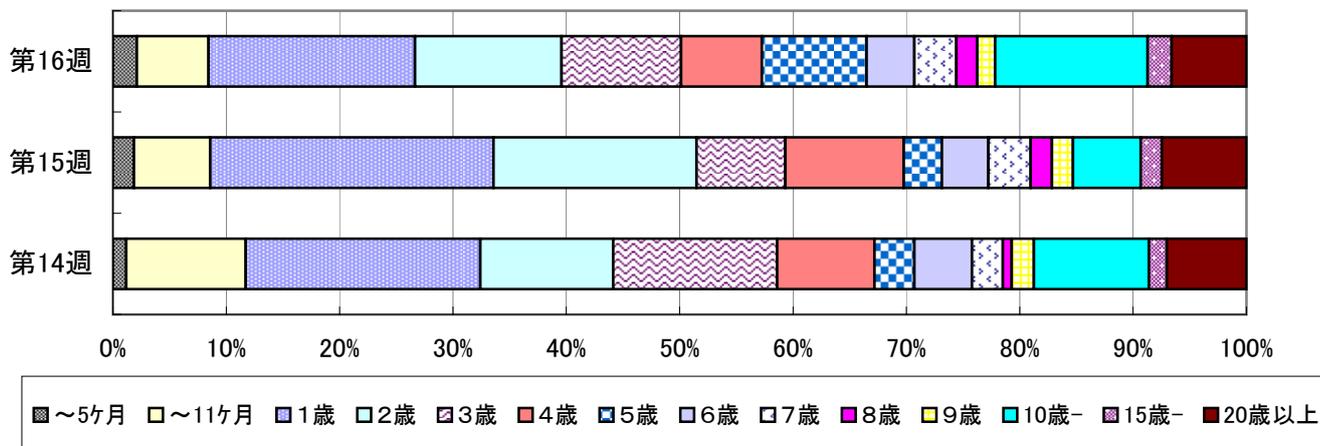
年齢階級別では、1歳、10歳～14歳、2歳の順に多くなっています。また、5歳以下が66.5%を占めています。

全国の感染性胃腸炎関連のウイルス検出状況を見ると、ロタウイルスの報告が増加しており、京都市衛生環境研究所においても、ロタウイルスが検出されてきています。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



年齢階級別構成割合



全国の地方衛生研究所からの感染性胃腸炎関連のウイルス検出割合

